

# 市川市保育のガイドライン

市川市こども施設運営課

平成 29 年 10 月改定



## 目 次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 目次                         | 1  |
| 1. 市川市保育のガイドラインについて        | 2  |
| 2. 市川市保育のガイドラインの位置づけ       | 3  |
| 3. 市川市保育のガイドライン            | 4  |
| ～育てよう 市川っ子～                | 5  |
| 乳児保育・1歳以上3歳未満児保育           | 6  |
| 3歳以上児の保育                   | 7  |
| <br>                       |    |
| 保育者                        |    |
| <b>職員の質の向上</b>             |    |
| 保育の姿勢・研修及び自己評価             | 8  |
| 保 育                        |    |
| <b>保育の基本</b>               |    |
| 保育目標・計画・評価                 | 9  |
| <b>保育内容</b>                |    |
| 乳児～3歳未満児保育・3歳以上児保育         |    |
| 環境・配慮を必要とする子どもへの支援・保育の質の向上 | 10 |
| <b>健康な心と体</b>              |    |
| 健康状態の把握・環境整備・健康教育          | 11 |
| 食育・食の提供                    | 12 |
| 運 営                        |    |
| <b>安全管理</b>                |    |
| 環境・危機管理・緊急時の対応・事故防止の取り組み   | 13 |
| 災害時の対応                     | 14 |
| 保護者                        |    |
| <b>子育て支援</b>               | 15 |

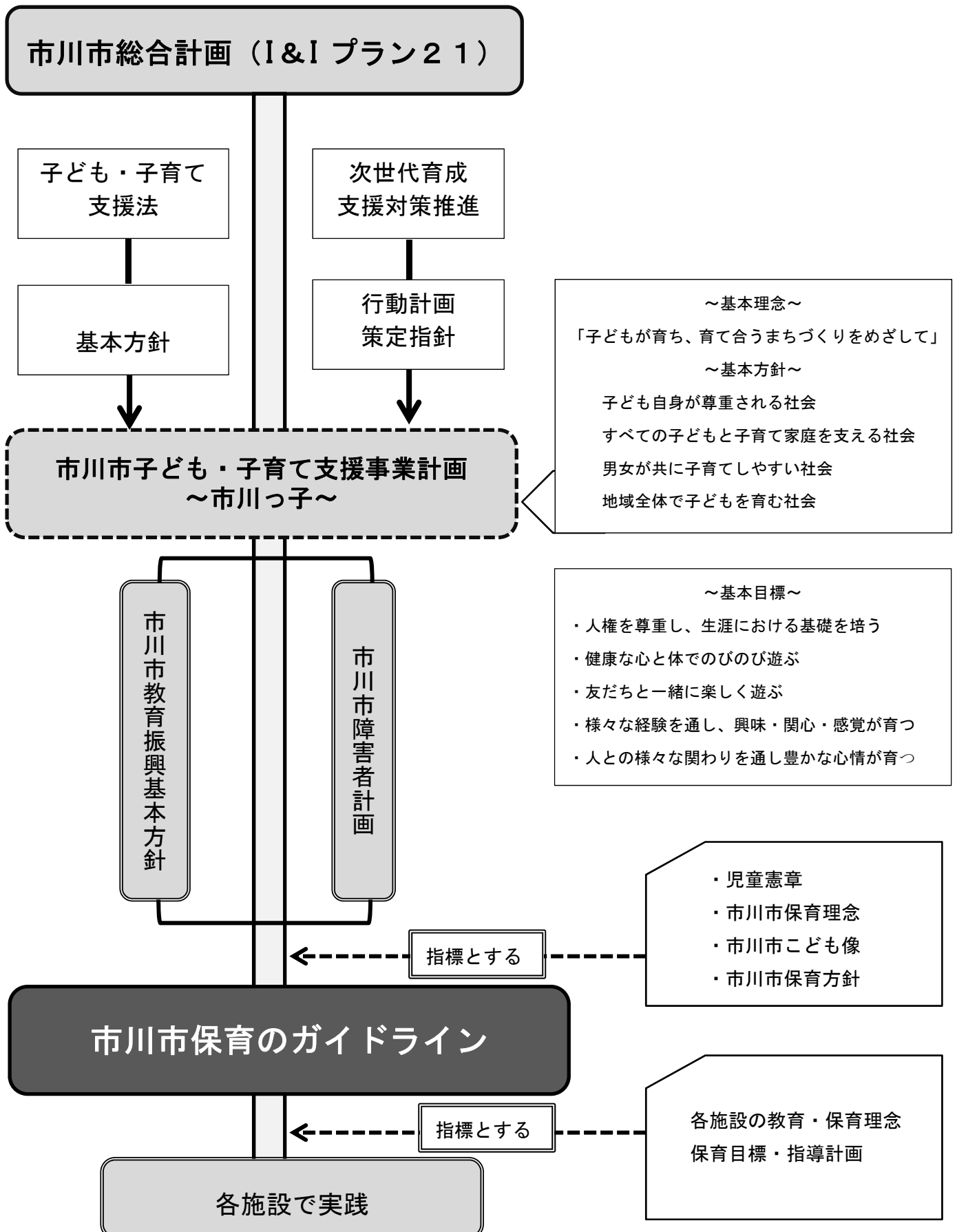
## 1. 市川市保育のガイドラインについて

市川市では平成 11 年度から 10 年間の計画として「市川市エンゼルプラン」を策定しました。その後次世代育成支援対策推進法の成立を受け、「市川市エンゼルプラン」を発展させた市川市次世代支援行動計画（前期・後期）を策定し地域社会で子どもと子育て家庭を支援するための取り組みを総合的・計画的に推進してきました。

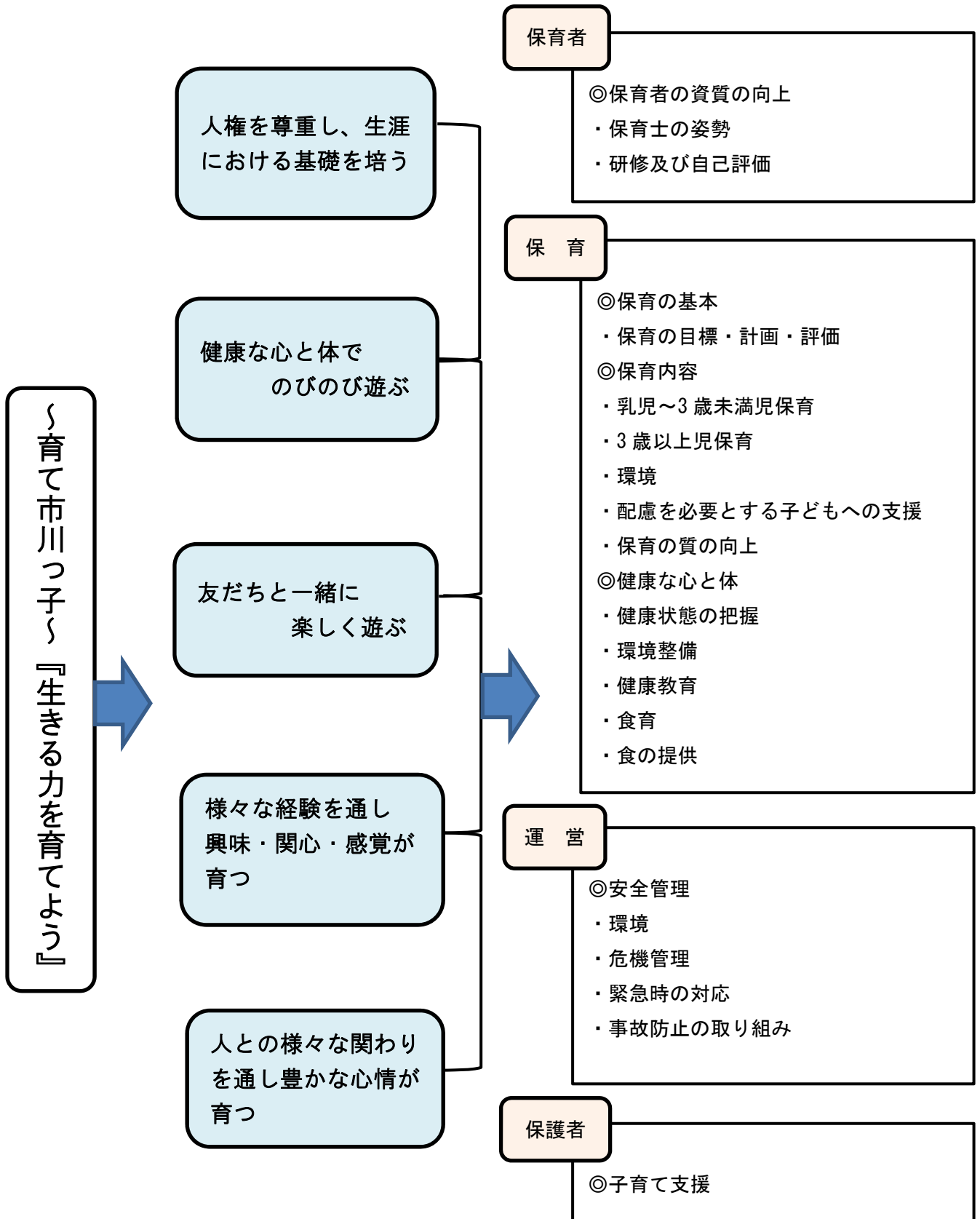
平成 27 年度からは、子ども・子育て支援法に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画と次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画を一体的に策定しました。また、市川市総合計画（I & I プラン 21）の部門別計画に位置づけられるもので他の部門の別計画と連携・整合性を図るものです。これにより、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すことへの考えを基本とし、一人一人の子どもの健やかな育ちを等しく保障した取り組みを推進しています。

核家族化が進み、少子化、世帯構造の変化、共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化、養育力低下や子育てノウハウの未伝承、子育ての負担感や孤立感、待機状況の深刻化、児童虐待の深刻化などから子育て家庭や子どもの育つ環境が変化しています。保育園はそれらの変化を踏まえ、乳幼児にとって、「ふさわしい生活の場」として、一人一人を大切に丁寧な保育を提供すると共に、入園児童の保護者や地域の子育て家庭への支援を視野にいれ、地域の様々な社会資源との連携を図りながら、地域に開かれた保育園として、子どもの成長に欠かせない保育の場を確保し、地域の子育て力向上に貢献する役割を担っています。様々な保育事業者の参入が増加する中、保育へのニーズも複雑化し、保育園の果たす役割は多様化しています。保育園はこの現状をふまえ、その役割に十分応えていくために、在園・在宅を問わず子育て支援をすすめ、地域の子育て支援の拠点となるよう努めます。また各教育・保育施設に携わる全ての人がこの『市川市保育のガイドライン』を市川市の保育の指針とし、質の向上を目指してまいります。

## 2. 市川市保育のガイドラインの位置づけ

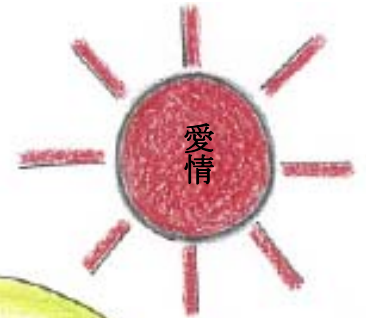


### 3. 市川市保育のガイドライン



# ～育て 市川っ子～

## 『生きる力を育てよう』



# 乳児保育

人間の一生に影響を与える大切な時期を心豊かに育てていくために、5領域をベースとした3つの視点で愛情豊かに育てていくことが大切です。

## 3つの視点

### ◎身体的発達

『健やかに伸び伸びと育つ』

### ◎精神的な発達

『身近なものに関わり感性が育つ』

### ◎社会的発達

『身近な人と気持ちが通じ合う』



### ◎人の感情は3歳までに育ちます

目に見えない心の育ちを保障する大きな役割が保育者にはあります。

子どもの気持ちをあたたかく受け止め不安に丁寧に応えたり、やりたい遊びを十分に楽しませてあげたり応答的に対応していくことが大切です。

大人は子どもを育て、育った子どもはいずれ子どもを育てる大人になります。生涯にわたる人格形成の基礎を築く大切な時期に、あたたかいまなざしを受け好きな遊びを十分に経験し、気持ちを受け止めてもらい、自分を大切にできる心、まわりの人を大切にできる心、失敗してもあきらめずにやり遂げる力、いろいろなことに挑戦する力、自分の気持ちをコントロールする力を育てていきます。

### ◎養護

十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。

#### 「生命の保持」

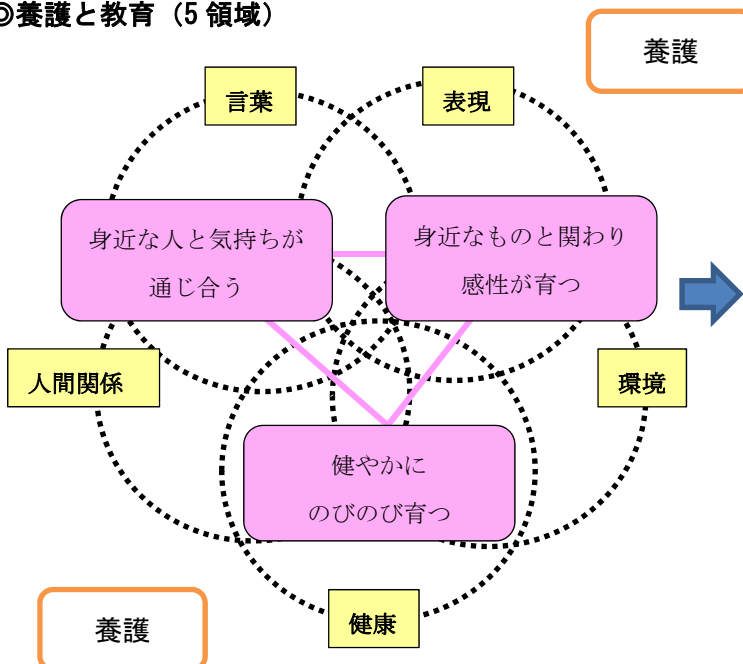
子どもが健康で安全、快適に過ごせ整理的な欲求を十分に満たします。

#### 「情緒の安定」

子どもが自分を安心して表し、自分を肯定できるように、周囲の大人が丁寧に受け止めていきます。

## 1歳以上3歳未満児保育

### ◎養護と教育（5領域）



生きる力の基礎を育てる



### ◎学びが芽生える

生活や遊びの中でまわりの人や物に興味をもち、自ら直接関わろうとする「学び」を支援し、育てていきます。





### ◎スタートカリキュラム

幼児期の学びと児童期の学びをつなぎます。

### ◎アプローチカリキュラム

幼児期の学びを小学校教育につなぎます。



### ◎幼児期の終りまでに育ててほしい姿に配慮し

3～5歳児の各時期に、適切な保育を積み重ねて行く必要があります。育った姿が就学につながっていきます。

- ・健康な心と体
- ・自立心
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

子どもの自発的な遊びや生活の中で育む

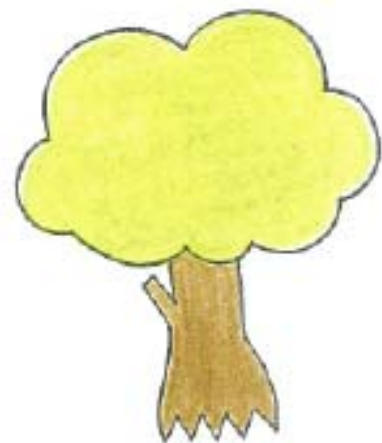
### ◎生きる力の基礎

(幼児期に育みたい資質、能力)

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力、判断力、表現力等の基礎
- ・学びに向かう力・人間性等

(認知能力と非認知能力の育ち)

## 自己肯定感の育ち



## 3歳以上児の保育

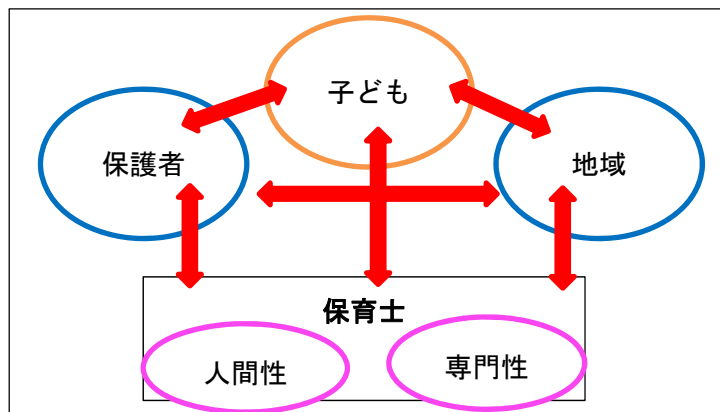


# 保育者

## 職員の資質の向上

### ○保育の姿勢

保育園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期にその生活時間の大半を過ごす場であり、保育者は子どもが生きる力を培うために的確な子どもの理解、専門的知識、技術の向上や倫理観に裏付けられた判断、対応が常に求められます。保育者が子どもを愛し、大切に思い、子どもの気持ちを受けて柔軟に保育を行うと同時に子育て支援、多様な課題に対応するためには、常に自らの人間性と専門性の向上に努めなければなりません。保育者は専門職として、仕事に誇りと自負を持ち、保育者同士が信頼と尊厳を持ち自身が目指す保育と実践を行うことが大切です。



### ○研修及び自己評価

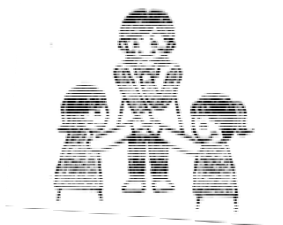
保育園は質の高い保育を展開するために、自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育園内外の研修を通じて、必要な知識の修得、維持及び向上に努めます。施設長は、常に社会の動向への広い視野を持ち、保育者の資質向上のため組織的に取り組む姿勢が欠かせません。そのため、勤務体制の調整、職員の修得すべきねらいや目的に合わせた研修、社会情勢にあった内容の研修を計画し専門性を高めます。課題などへの共通理解や協働性を高め職員全体の保育に質の向上を図ります。

市川市では年1回、保育、教育に携わる保育施設全職員を対象に研修会を実施し情報の共有化を図り、組織的に対応するため協働性を高めていきます。

また、保育の質の向上のためには、保育者の専門性を高める自己評価と教育・保育内容とその運営についての組織的、継続的な評価・検証が求められています。保育者自身の自己評価は、「子どもの育ちを捉えていたか」「環境構成・援助は適切であったか」等を振り返り次の保育への改善を図ることが重要です。

保育施設に対しては、他機関専門委員等の巡回や評価を受け、一人一人の子どもが豊かに育つ保育園生活が営まれているかなど、具体的な助言及び指導を受け、新たな観点から保育の課題を明確にとらえ保育の質の向上を図ることが大切です。

園全体での取り組み



園内外の研修共有

リーダーシップ・同僚性





# 保 育

## 保育の基本

生まれて間もない乳幼児期の経験は、生涯の成長や社会性の獲得にも大きな影響を与え人と関わり信頼関係を築く基礎となる大切な時期です。生涯における人格形成の基礎を築いていく時期に一人一人が豊かに育っていくよう養護が行き届いた安心できる環境を保障します。

### ○保育目標・計画・評価

保育を必要とする乳幼児について、養護と教育が一体化し一人一人を尊重した保育を行うと共に、子どもと保護者が安心して生活できることを保育の目的とします。市川市の子どもが健やかに育つように各保育園では、地域性を考慮し養護の行き届いた環境の下、一人一人の子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出し、周囲と共に生きる力の基礎を培うために全体的な計画（運営方針、保育課程、指導計画等）を作成し保育を実施していくことが大切です。

## 保育内容

### ○乳児～3歳未満児保育

乳児から3歳未満児の育ちには手厚い養護が大切で、特定の大人が愛情深く関わり愛着関係を築きます。人間の一生に大きな影響を与える大切な時期を、「健やかに伸び伸びと育つ」ように、「身近な人と気持ちを通じ合う」ように、「身近なものに関わり感性が育つ」よう愛情をいっぱい注ぎ心豊かに育てていきます。またこの時期は、歩行の完成、言葉の獲得、いろいろなものへの興味関心の広がり、他者との関わりなど経験の積み重ねは生涯の学びの出発点となる「学びの芽生え」につながります。

### ○3歳以上児保育

幼児期の遊びは子どもが自ら考え主体的な活動で、人として成長していくためのあらゆる要素が含まれ生きる力の基礎を培います。このころは運動機能が発達して、基本的な生活習慣もほぼ自立し、理解する語彙数が増え知的興味や関心も高まります。大人が仲立ちとなることで、子どもたちは自らの世界を広げ様々な遊びを子ども同士で楽しむようになります。子ども同士の遊びが豊かになると、仲間という喜びや楽しさを感じ友だちとのつながりが深まると同時に、競争心も生まれけんかも多くなります。様々な共感やぶつかり合いを繰り返しつつ一緒に遊ぶためには自分のことだけではなく、友だちの気持ちも受け入れなければならないことに気付き、友だちの思いに心を寄せ、自分の気持ちに折り合いをつけられるようになり、友だちと遊びを追及しながら、仲間の中の一人としての自覚が生まれます。友だちと共に豊かな体験を通して感じたり、気付いたり、分かったり、出来るようになったことが生涯にわたる生きる力の基礎となりそこから歩み始める人生につながります。経験したことは就学前までに育って欲しい姿となり卒園後の学びへの接続につながります。

## ○環境

乳幼児の主体的な活動の展開は保育者による環境の構成が大きく影響します。保育者自身も乳幼児にとって大きな環境であることを十分に意識し、言葉遣い、まなざし、姿勢などに配慮し、子どもが育っていくために必要なこと大切なことを丁寧に組み立てて保育することが望めます。

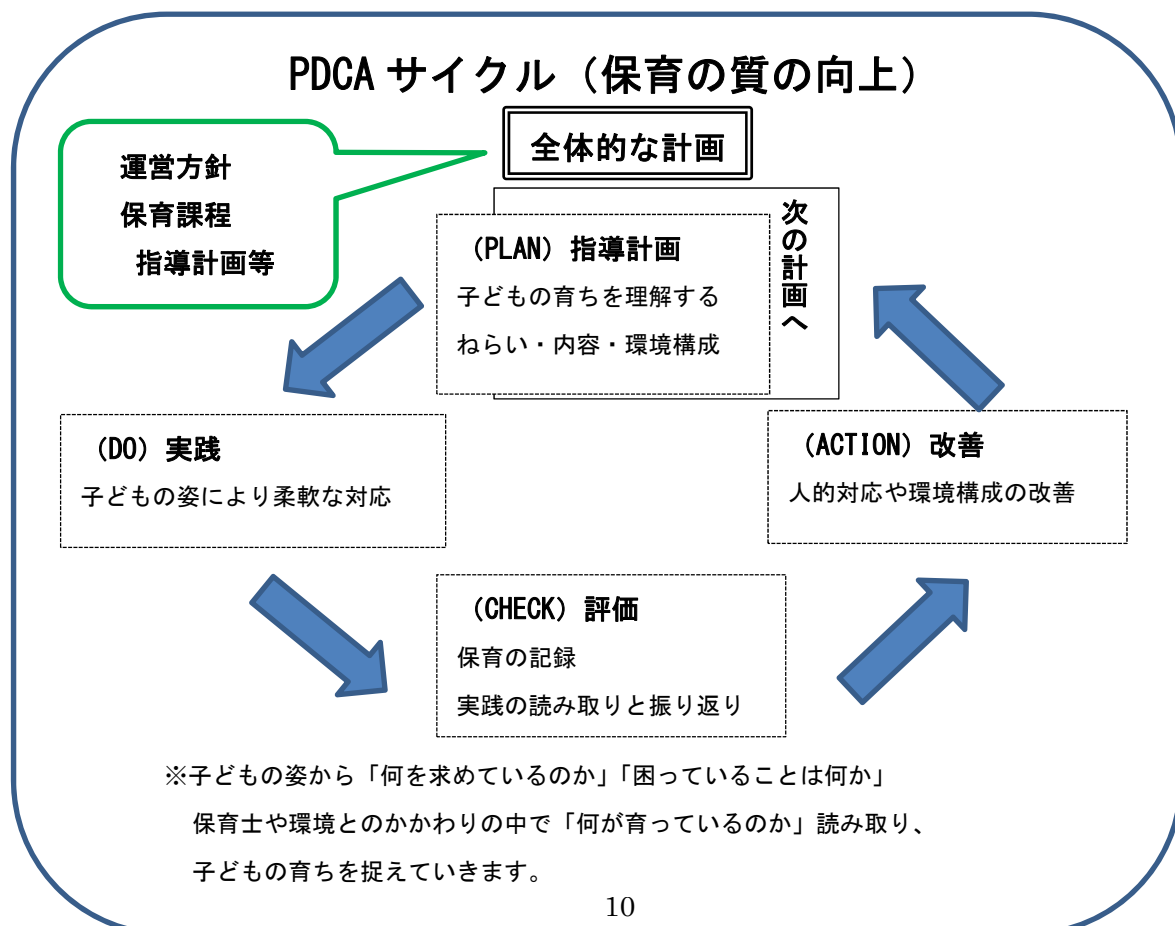
保育者は卒園後の学びへの姿を意識しながら、主体的な学びを育む保育によりスムーズな就学へとつなげます。子どもの内面の育ちや一人一人の良さや学びの状況を保護者とともに肯定的な視点で共有できる取り組みを進めます。子どもの活動が豊かに展開されるよう、設備や環境を整え安全の確保と衛生的な環境構成に努めていくことが必要です。

## ○配慮を必要とする子どもへの支援

子どもにとって生涯にわたる人格形成を培う大切な時期に、子どもの最善の利益を考慮し、最もふさわしい生活の場として、大人と同じ人格を持った人であることを心に留め子どもの人権を尊重した関わりが大切です。多様な保育が求められる中、全ての子どもの健やかな育ちを支援するため、貧困家庭、外国籍家庭、医療的ケア児など特別な配慮を必要とする家庭には状況に応じて個別の配慮や支援を行い、不適切な養育や虐待が疑われる場合には速やかに関係機関との連携を図る等の適切な対応が求められます。

## ○保育の質の向上

保育園は、子どもの全てを受け入れ、心身の状況に応じたきめ細やかな援助や関わりを基盤とし、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身につけていけるように保育を展開します。養護と教育が一体となった保育を計画的に進め保育の質の向上に繋げるために、計画を作成し実践、評価、改善（カリキュラム・マネジメント）を行い専門性の向上や保育実践の改善に努めることが大切です。



## 健康な心と体

### ○健康状態の把握

子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、心身ともに健康でそれぞれの順調な発育・発達を保障できるように、日々の健康観察・心身の状態観察や発育測定・検診などにより総合的に子どもの健康状態を把握し疾病の予防と早期発見に努めます。

「乳幼児突然死症候群 SIDS」予防等のため、睡眠中は睡眠チェック表を活用し子どもの様子を適切に観察します。

### ○環境整備

抵抗力の弱い乳幼児が集団で生活する保育園で、すべての職員が共通理解を持てるように研修等を行い、健やかな成長を支援するために安全で、衛生的な環境の整備に努めます。

プールの衛生管理については、文部科学省、厚生労働省及び千葉県健康福祉部から提示されている基準に則り行い、園児の健康状態の把握とプール水の衛生管理に留意し実施します。

事故発生時は応急処置を行い、事故報告、ヒヤリハット等により検証し予防や再発防止に努めます。

また、死亡事故・治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故についてはその後の経過にかかわらず、事案が発生した時点で担当課に報告します。

### ○健康教育

健康で安定した生活リズムをつくり、子ども達が健康に関心を持ち、自ら適切な行動が取れるように手洗い・うがいなどの基本的な清潔の習慣を身につけるよう援助します。

保護者に対しては、感染症の情報提供し予防対策を進め健診結果を伝えると共に、保健便りや園内掲示などを活用し啓蒙活動を進めています。

参考文献) 保育所における感染症対策ガイドライン

## ○食育

乳幼児にとって、「食べること」は身体の成長だけでなく、生きる力を身につけ、豊かな人間性を育みます。保育園ではいろいろな食材や味に触れ楽しく食事をするにより、食事の大切さやマナーを身につけ、正しい食習慣の基礎を作ります。

また、食育基本法により市町村食育推進計画として策定された「市川市食育推進計画」に基づき、食育を総合的・計画的に推進します。保育所保育指針に示された「全体的な計画」とこれを具体化した「指導計画」の中で、年齢にあった「食育」を計画としても位置づけます。

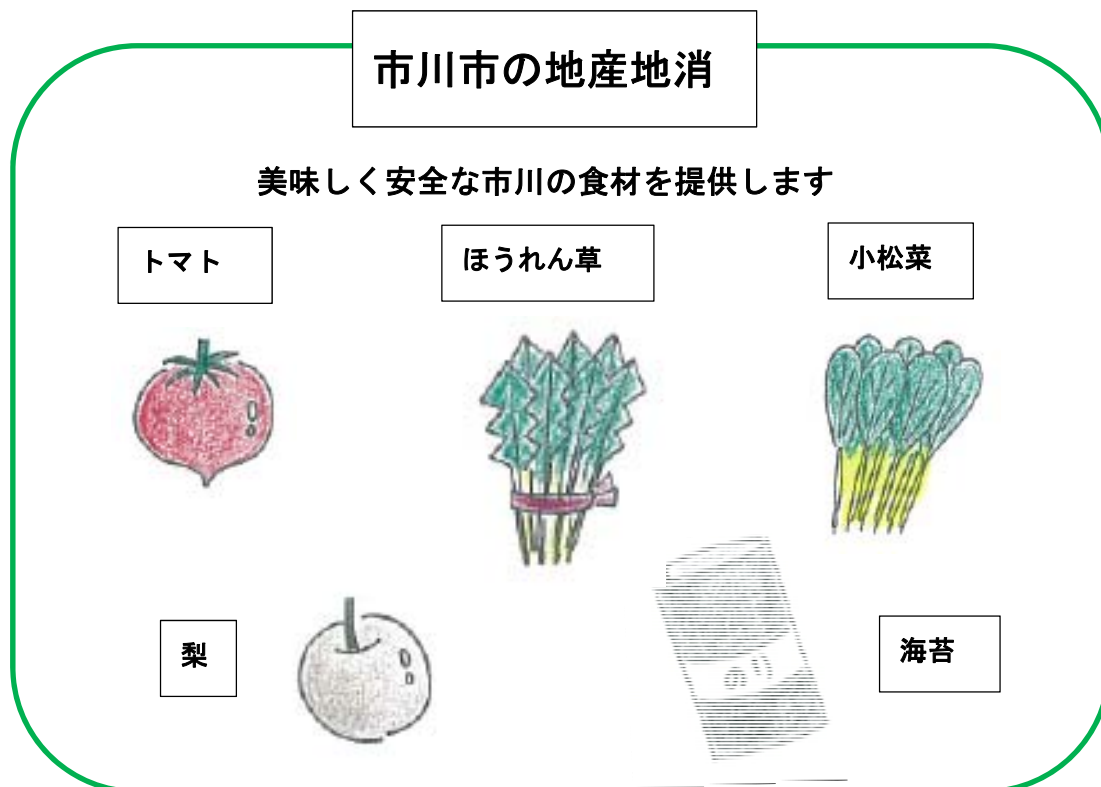
具体的な活動として、日本古来の食文化を大切に、四季折々の食材を使い伝承行事により伝統文化や地域の特色を伝えています。また、野菜の栽培・収穫の喜び・クッキング、食べる意欲や食に関わる経験を通して、幼児が食べ物への親しみや感謝の気持ちを育むようにしていきます。

園での手伝いや当番活動を経験し、食に関する動機づけをしながら、あわせて正しい知識やマナーの学習をすすめ「食」への関心を深めます。

## ○食の提供

食材は良質で安心できるものを使用し、出来る限り旬の食材、地域の食材を使い子どもがより多くの食材に触れ味わえるように工夫し、健康的な食嗜好を育むために味付けは薄味にしています。おやつは食事の一部としてとらえ、バラエティーに富んだメニューで実施します。

食物アレルギーのある乳幼児への対応については、保護者から申し出があった場合、医師の診断のもと「保育所におけるアレルギーガイドライン」に則り対応します。子ども一人一人の状況を適宜把握し最新の正しい知識を職員全員が共通認識して対応することが大切です。





## 運 営

### 安全管理

#### ○環境

子どもの健康と安全とは、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、保育園においては、一人一人の子どもの健康の保持・増進を図るとともに、安全で衛生的な環境維持及び向上に努めます。そのためには、一人一人の子どもの心身の状態や発育・発達状態を理解し、健全な発達を保障しうる整備された環境の中で保育することが大切です。

#### ○危機管理

子どもの成長・発達の過程では、『失敗』を通して年齢相応の学習をし、精神的にも成長します。しかしながら、危険に対する判断力や安全に対する認識が未熟なため、常に危険(リスク)と隣り合わせです。子ども自らが健康や安全に関心を持ち安全に遊びや生活を営む心と力、自分の身を守る力が育つように日頃から命の大切さを知らせ、体を十分使った遊びを積極的に取り入れた体力づくりをすると共に年齢にあった安全能力を身につける保育をすることが大切です。

#### ○緊急時の対応

緊急時に対応できるよう危機管理体制を整備し、速やかな行動がとれるよう判断基準と対応内容を職員全員に周知徹底します。行政機関や地域の関係機関との連携をすすめ保護者にも緊急時の避難方法や避難場所などの対応を知らせます。

万が一、児童の怪我、事故、不測の事態、感染症や食中毒、災害発生時には、速やかに保護者、担当課などの関係機関と連携を取り適切に対応することが必要です。

#### ○事故防止の取り組み

子ども一人一人を十分に理解し、健全な発達を保障しうる環境を整備した上で、特に睡眠時、プール活動、水遊び中、食事中等で、重大事故は発生しやすいことをふまえての対応が重要で、危険予測を行い事故はいつでもどこにでも起こりうることを認識し、ヒヤリハットの検証や安全点検を通して事故予防及び危機管理に取り組みます。定期的にはリスクマネジメント研修を開催し、職員の危機管理に対する意識の向上を図ることが望まれます。

# 災害時の対応

## 保育園内の火災

- ・ 119 番通報（火事です。〇〇保育園です。住所は。ケガ人は。）
- ・ 第一発見者は大声で園内に知らせる。
- ・ 児童を避難させる。
- ・ 可能なら初期消火を行う。

## 近所の火災

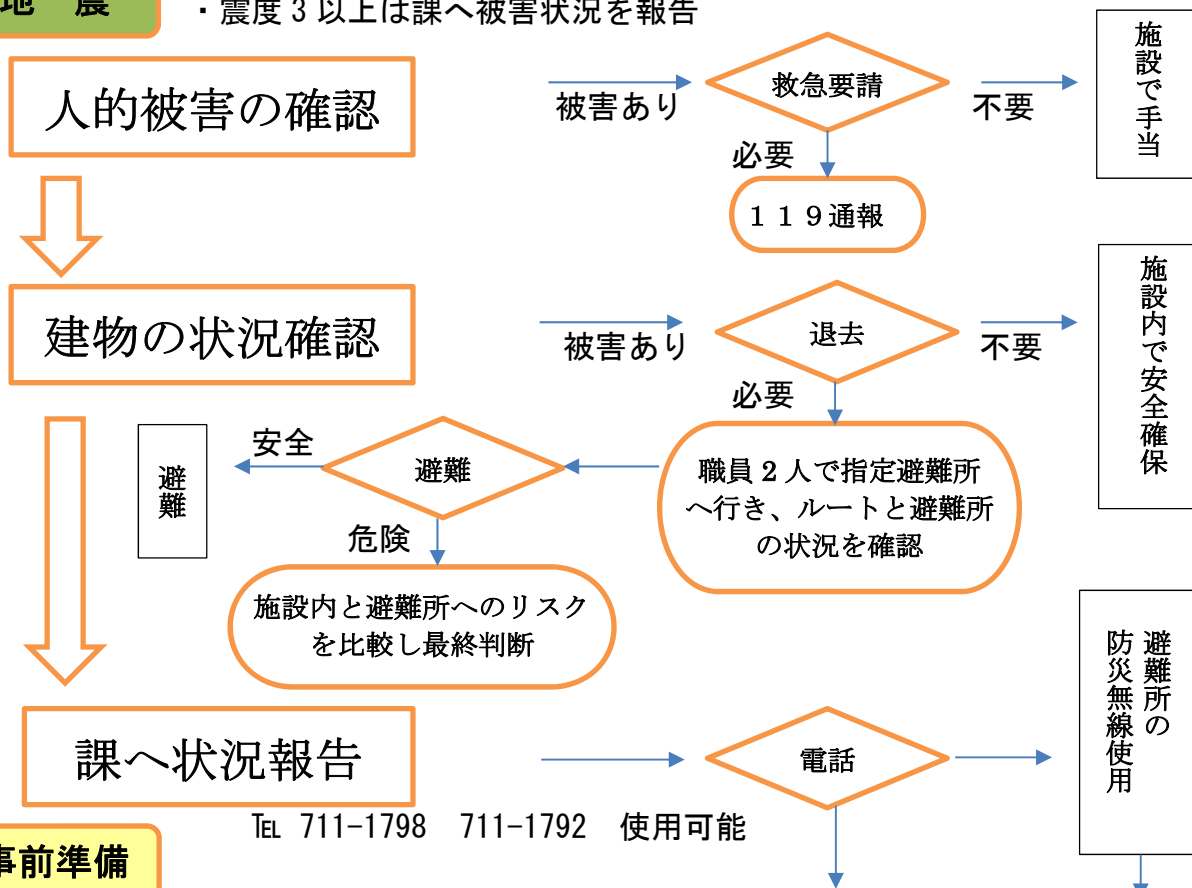
- ・ 園と火災現場の距離、風向き、道路状況等を勘案し避難を判断。
- ・ 強風下では飛び火の恐れもあるので、消火まで状況把握を継続。

## 水害

- ・ 遠方の津波や台風などは情報収集を継続し、避難は早期に判断。
- ・ 急な豪雨等の際は園舎での垂直避難を原則とするが、河川情報に注意し、甚大な被害が想定されるときは、最寄りの高い建物へ避難。

## 地震

- ・ 震度 3 以上は課へ被害状況を報告



## 事前準備

- ・ 水害に備え、最寄りの高い建物に非常時の一時的避難の協力を要請しておく。
- ・ 避難時の持ち出し書類の点検（登降園簿、出席簿又は健康記録簿、緊急連絡先）
- ・ 非常用持出袋の点検（園用携帯電話、防災頭巾、靴）
- ・ 備蓄物の定期的な確認

- ・ 人的被害の状況（児童・職員）
- ・ 物的被害の状況（施設・近隣・ライフライン）
- ・ 応援が必要か否か
- ・ 今後の対応





## 保護者

### 子育て支援

- 核家族や少子化・都市化などの社会環境の変化に伴い、世代間の育児知識の伝承が薄くなり、地域における子育ての助け合い機能が低下しています。子育ての基本は家庭ですが、子育てに自信がもてず不安を抱き母親が孤立し、虐待につながるケースも少なくありません。子どもは親に愛され、親は子どもを愛おしく育てることで親子の愛着関係が築かれ、子どもと保護者が安定した関係の中で子育てを楽しみ子どもたちが健やかに成長できるよう支援することが大切です。
- 保育者はその専門性を生かし、保護者の養育状況を把握したうえで成長発達の特徴や成長していく過程において病気やけがをすること、友だちと遊びあう重要性などを知らせ子育ての不安を取り除き、子育てに安心と喜びが感じられるよう適切な支援をすることが求められます。
- 地域の子育て拠点として、地域交流、子育てなんでも相談、マイ保育園登録事業、他機関・他課との連携を通し、出会いの場や親育ちの場として心配事や喜びを共有できるよう支援することが必要です。

市川市の保育方針

～育て 市川っ子～

『生きる力を育てよう』





## 子どもが大好き！



子どもってかわいい  
子どもの笑顔が好き  
子どもと遊ぶのが好き  
子どもとおしゃべりするのが大好きかわいい  
子どもって癒される  
先生って毎日遊んで楽しそう  
あこがれの先生みたいに子どもと遊ぶ保育者になりたい

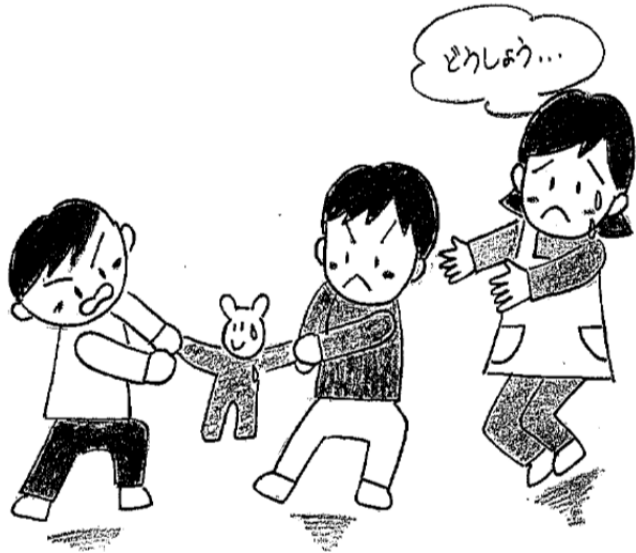


## 現実、違うことがたくさん



「子どもが好き。保育者になりたい」という思いを胸に、保育者になりたくて仕事を始めました。初めは何をしたらよいのかわからず、ただうろうろして先輩の言われる通りに動く毎日。泣いている子どもを抱っこしても泣き止まないし、私も泣きたいくらい。

- ・何を話したらよいのかわからない。
- ・「楽しい保育」ってどんな保育なの。
- ・子どもを受けとめるって難しい。
- ・子どもは本当に楽しんでいるのかな。
- ・子どもってどうして泣くの。どうしたら泣き止むの。
- ・子どもの思っていることがわからない。
- ・いやいや期はどうしたらいいの。
- ・子どもに何を話したらよいのかわからない。
- ・子ども同士のけんかってどうしたらいいの。
- ・子どもが私の話を聞いてくれない。
- ・ノートでの保護者とのコミュニケーションがわからない。
- ・あの先生の話は聞くのになんで私の話は聞いてくれないんだろう。
- ・今日も怒っちゃった。
- ・今何をしたらいいのかわからない。
- ・行事当番は何をするの。
- ・周りの先生のように動けない。





## やっぱり子どもが好き



何をしたらいいの  
どうしたらいいの  
いつまわりの先生に相談してもいいの



## 悩みを解決しよう

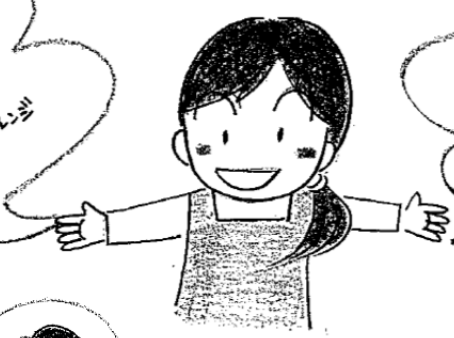


たくさん悩んでどうしたら良いかわからなくなり、子どもと過ごすことが楽しい毎日。何をしてもうまくいかなくて、空回りしてしまう。どこが悩みなのか分析してみよう。そして、とにかく子どもとたくさん遊んでおしゃべりしよう。

どの人も通る道です。この時期を乗り越えたら楽しい保育が待っています。

- とにかく子どもと遊ぼう。
- こどもの声に耳を傾けて聴いてみよう。
- 悩んでいることをまわりの人に話してみよう。
- 保育について職員と語り合ってみよう。
- 計画を振り返り記録を取ろう。
- なぜ失敗したのか分析してみよう。
- 失敗しても大丈夫。また、チャレンジしてみよう。
- 誰でも一年目から始まりました。誰でも通った一年目、二年目、三年目…だから先輩は苦労がちゃんとわかります。
- 小さな成功を大切にしよう。
- 頑張ったことを大切にしよう。

様々な体験ができる「場」づくり





## 子どもには可能性と未来がある



子どもを受けとめるって難しいどうしたらいいの



### 楽しい保育をして楽しい保育者になろう



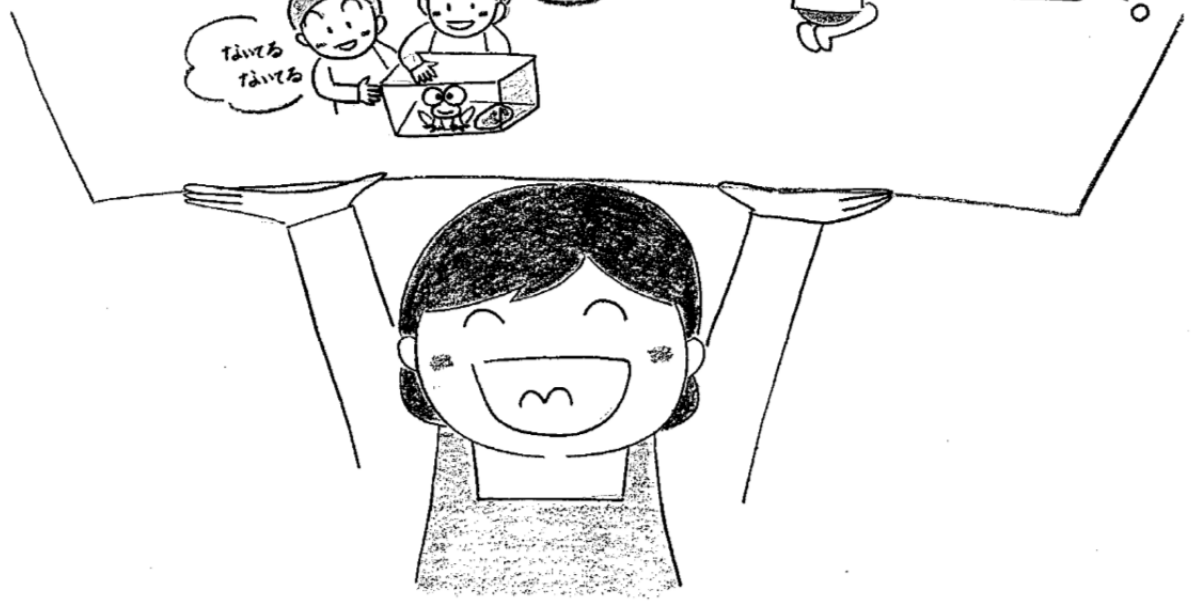
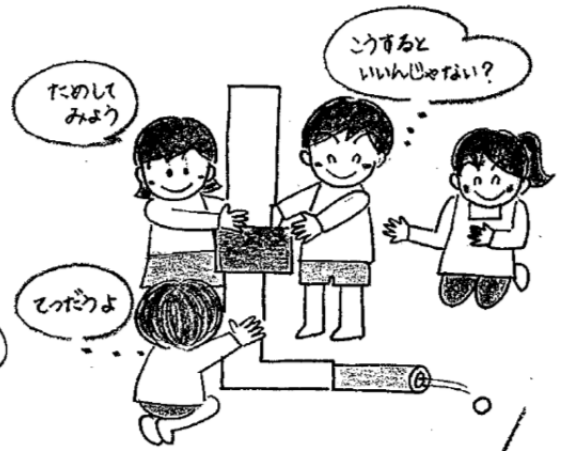
たくさんドキドキして不安も心配事もありました。それから少しずつわかることも増えて、見通しがもてることが少しずつ増えてきました。

「保育って大変だけどやっぱり楽しいな。子どもの成長がわかることは嬉しいな。」

「行事は大変だけど子どもが喜んでくれて、やっぱり頑張ってる良かった。」

と感じられる保育者になりました。

- 子ども一人一人興味関心が違います。その子が今思い切り遊びたいことはなんだろう。子どもの思いや好奇心に目を向けていくことが大切です。
- 保育者の感性が子どもの欲求とずれていると子どもは保育者に心を開きません。保育者が子どもの気持ちに気づくこと、ずれがないか自己判断だけではなく周囲の保育者と話し合い振り返りをしましょう。
- 子どもは保育者が作った環境の中で育ちます。だからこそ、片寄りがなく子ども一人一人の育ちの未来を大切に、環境を保障しましょう。子どもが好きな遊びに没頭できる環境、子どもが興味を持ったことに思いきり打ち込め満足いくまで遊べる時間を大切にしましょう。
- 保育においては、いつも子どもが主体です。保育者の思いや考えを押し付けたり、禁止語や否定語ばかり使ったりしていると子どもは心を開いてはくれません。自分で考えようとするのをせず指示に従うだけになってしまいます。わがままを聞くのではなく、子どもの気持ちを酌みとり聞き取りをしましょう。
- 言葉は大切です。子どもが言葉を習得する時期に、見本となる言葉で子どもたちに語りかけながら、生活の中で言葉の美しさや楽しさに気付けるようにしましょう。

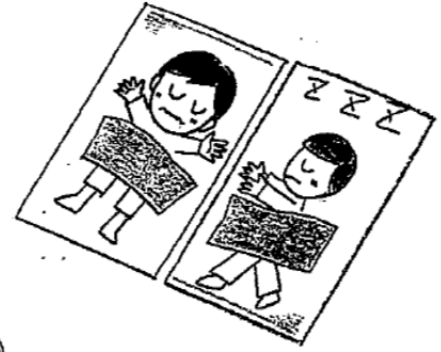




# 春・夏・秋・冬



# いっぱい遊ぼう！！





『保育者の気づきが感性豊かな子どもを育てる  
楽しい保育をするために』



～今日のチェックしてみましよう！～

- 一日楽しいことがありましたか。
- 一日一回子どもと笑いましたか。
- 子ども全員とおしゃべりしましたか。
- 子ども全員と触れ合いましたか。
- 保護者に笑顔で挨拶と一言を交わしましたか。
- 一日他の職員と話しましたか。
- 今日の保育の評価反省はしましたか。
- 明日の保育準備は出来ていますか。



乳幼児期の小さな芽は大きな葉、太い幹、太い根、強い根の源です。

保育者は、子どもたちの5年後、10年後、成人した姿、どのような大人になって欲しいかを思い描いて今を保育します。子どもたちが強くたくましく優しく生きて行くために、人生の土台となる乳幼時期を保育者みんなで支え育てましょう。

市川市の保育方針

～育て 市川っ子～

『生きる力を育てよう』



～保護者編～



## はじめまして



おとうさんだよ！ おかあさんだよ！

生まれてきてくれて 嬉しかったよ  
あなたは私の宝もの  
泣いた顔 笑った顔 すべてがかわいい いとおしい  
うちの子がやっぱり一番  
ずっと ずっと いっしょにしようね  
楽しいこと うれしいこと いっぱいあるよ  
大きくなってね  
子育てはのんびりいこう 楽しもう



## 現実、違うことがたくさん



「生まれてくれてありがとう」という気持ちで初めての子育てがスタートしました。初めは夢や希望にあふれながらも、専門書や育児書を参考にする毎日。「これでいいの」「どうしたらいいの」と不安な気持ちになることも多くて。

- ・名前を呼んだら、笑顔でにっこり。  
でも、急に泣き出して…何で泣いているのかな。
- ・どうしてなかなか寝てくれないの。私もゆっくり寝たいのに。
- ・ミルクを飲んでくれない。大丈夫かな。
- ・赤ちゃんって何を食べるの。どうやって食べさせたらいいの。  
食事の進め方がわからない。
- ・ゆっくりご飯が食べたい。ゆっくりお風呂に入りたい。  
少しでいいから、自分の時間がほしい。
- ・わが子のことがわからない。みんなはこんな時どうしてるの。
- ・いたずらばかりで困ってしまう。
- ・何でも「イヤイヤ」私の言うことを聞いてくれない。イライラしてしまう。
- ・育児書通りにうまくいかない。
- ・いろいろなことを試してみても、思い描いていた子育ての楽しさとは程遠い育てにくさを感じてしまう。
- ・誰か話を聞いてほしい。私の子育てまちがっていない？





## やっぱりわが子はかわいい



子育てってこれでいいの  
どうしたらいいの  
まわりの人に相談してもいいの  
悩んでいるのは私だけ



## 悩みを解決しよう



たくさん悩んでどうしたら良いかわからなくなり、子どもと過ごすことが  
楽しめない毎日。何をしてもうまくいかなくて疲れてしまう。  
でもね、育児書通りでなくて大丈夫。他の子と比べなくて大丈夫。  
一生懸命子育てしているから、そこに悩みもあるのです。  
周囲の人と子育ての大変さを分かち合いましょう。

- ・赤ちゃんの気持ちは『泣く』という形で表れます。いっぱい泣いても大丈夫。  
泣いたら『よしよし』しましょう。

～赤ちゃんの気持ちを聞いてあげましょう～

- ・子どもは大好きなおとうさん、おかあさんをいつも見ています。目が合うと自分  
を見てくれていると感じ安心します。

目と目を合わせて笑顔で話しかけましょう。

～返ってきた笑顔に思わず『かわいい!!』もっと笑顔になるでしょう～

- ・子どものあそびを一緒に楽しみましょう。

- ・甘えたいときは、甘えさせてあげましょう。

～たっぷり甘えた子はしっかり自立していきます～

- ・自分でやりたいときは「やっごらん」とやらせてあげましょう。

- ・子どもの声に耳を傾けて聴いてみましょう。

～きっとかわいい『つぶやき』が聞こえてきます～

- ・悩んでいることをまわりの人に話してみよう。

- ・「あ～また失敗しちゃった」で大丈夫。また、チャレンジしてみよう。

～完璧なおとうさん、おかあさんはいません。みんな、みんな一緒～

- ・成長の中の小さな発見を大切にしましょう。

～もっと肩の力を抜いてみて

きっと子育ては楽しいはず～



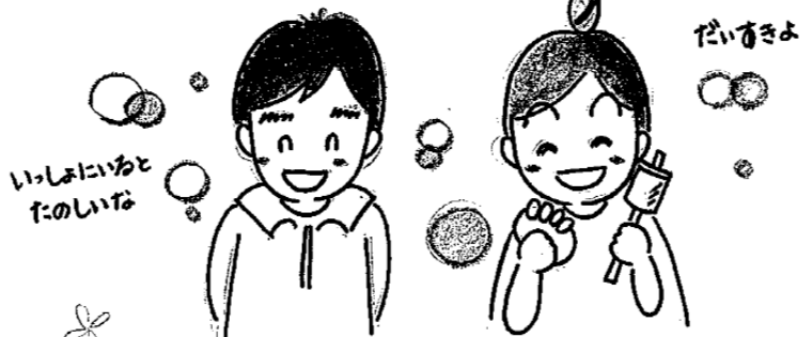
ここは...  
ぼくは だれ???



きもちいい



うれしいな



いしはいると  
たのしいな

だいすきよ



うまれさせて  
くれて

ありがとう



自立



意欲



安心感



甘え





## 子どもには可能性と未来がある



子育てを楽しみましょう



### 子どもが幸せに育つために



子育てにはたくさんドキドキや不安、心配事があります。成長と共に少しずつ楽しみが増えて、子育てに見通しがもてることが増えてきました。

子どもの成長がわかることはとても嬉しいことです。

「子育ては大変だけどやっぱり楽しい」「子どもの成長は嬉しいな」

「わが子の笑顔が一番かわいい」「親になって良かった」と

感じられるようになりました。

そして、成長と共に子どもは一步、また一步と外の世界へ目を向けていきます。

いろいろな人との関わりが増え、少しずつ世界が広がっていきます。

- ・「自分は大切にされている」という気持ちは、心の土台となります。  
抱っこされたり、よしよししてもらったり、イヤイヤと駄々をこねたり、一緒に笑ったり…。そんな経験によって土台（自己肯定感）は育まれます。
- ・「自分は大切にされている」という気持ちを土台に、次に身につけていくのが『トイレに行く』『服を着替える』『友だちと仲良くあそぶ（おもちゃのやりとり等）』『順番を守る』などの生活習慣やマナー・ルールです。  
「自分は大切にされている」という気持ちは、「相手を大切に思う心」を育てます。  
そして、あそびを楽しみ、様々な経験を繰り返す中から自分で考える力、工夫する力、失敗してもあきらめない力など『生きる力』を身につけていきます。
- ・自己肯定感を育み、生活習慣やマナー・ルールをある程度身につけると、それを土台に学びを経験することができるようになります。いろいろなものに対して好奇心が現れるため、そのときに、丁寧に教えてもらうことで学んだことが身につけていくのです。  
土台がしっかりしていないと積み重ねることが難しくなります。  
子どもの心を育てていくこと、自己肯定感を育むことが一番大切なのです。

～愛情豊かに育てていきましょう～

生きる力

生活習慣

着がえをする

社会性



マナー



ルール

順番をまつ

学び

基本的生活習慣

自己肯定感

大事な土台

学び



やってみよう!



好奇心



よしよし

あなたは大切な存在

お母さ〜ん  
安心



痛い



=3

やってみたい!!



あぁ! な〜に?



安心

# 子育て ~いっぱい



# 365 日！！

## あそぼう～



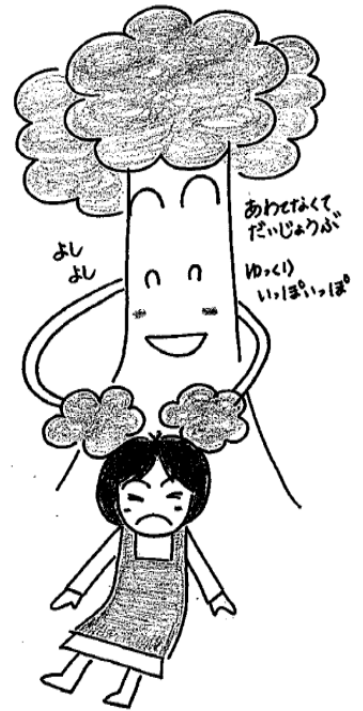


## 『子育てを楽しむためのエッセンス』



- 子どもと一緒に笑おう。
- 子どもと触れ合おう。
- 子どもの話を聞いてみよう。
- 子どもについておしゃべりしてみよう。
- わが子の『かわいいところ』を発見しよう。
- 子育てはのんびり、慌てずに。

～子育て奮闘中、ゆっくりお休みする時間が  
なかなかありませんね。  
おとうさん・おかあさん、毎日ごくろうさま。  
子どものいやいや期はもうすぐ終わりますよ。  
大切に、大切に育てていきましょう。『よしよし』と～



乳幼児期の小さな芽は大きな葉、太い幹、太い根、強い根の源です。

ゆっくりゆっくり愛情のシャワーをあげながら育てていきましょう。

焦ることも、慌てることもないのです。子どもが1歳になった時、初めておとうさん・おかあさんも1歳になるのです。子どもたちの5年後、10年後、成人した姿、わが子の成長を楽しみに、人生の土台となる乳幼児期をみんなで支え育てましょう。